

韓国薬学研修報告

4年 14A067

坂川 彰悟

概要

2017年8月23日～26日の4日間にわたり韓国研修を行い、研修内容としては東亜薬品（株）、漢陽大学、連携薬局、漢陽大学大学病院、韓方剤市場を中心に回りました。本学からは3年生1人と4年生3人が参加しました。

漢陽大学

漢陽大学はとても大きい学校で薬学部のキャンパスは本学のソウルから離れた京畿道安山市にあります。漢陽大学の薬学部は各学年30人と少数精鋭で構成されており、カリキュラムは2+4年で構成され、1-2年生は共用科目、3-6年は専門科目を履修します。漢陽大学の薬学部は大学院の進学率が高く研究室には大学院生が多く在籍しているため研究が盛んに行われています。そのため製薬会社からの寄付が集まりやすくHPLC（高速液体クロマトグラフィー）や質量分析器などのとても高価な機器が各研究室に設置しやすくなっています。



図1.質量分析器

また、学内には模擬調剤薬局があり、調剤等の練習をしていました。



図2.漢陽大学内の模擬薬局

韓国の薬学生は日本と同様に調剤薬局と病院の実習に行きます。実習での大きな相違点は2つあります。1つ目は日本では1社だけの調剤薬局に研修しに行きますが、韓国では調剤薬局の実習期間を2分割して2社の調剤薬局に行きます。そのためより多くの調剤薬局を回ることでより多くの知識を身に着けることができます。また、研修先の調剤薬局は個人経営であることが多く実習生は即戦力として使われます。2つ目は日本のカリキュラムではありませんが製薬会社にも実習として行くことです。



図 3.研修先の調剤薬局
(左；学生、右：薬剤師)



図 4.漢陽大学の学生と交流

韓方剤市場

漢方剤市場は日本ではあまり見る機会がない生薬が数多く販売されており、一般の方が美容や健康目的に生薬を購入して、主にお茶として使用されて、美味しいものが多くあります。



図 5.6.7.韓方剤市場

最近の法改正で韓方を取り扱うためには専門の免許が必要となったため、韓方薬局の薬剤師は専門の免許を有しています。また法改正の影響で韓方薬局の店舗数が減少傾向にあります。



図 8.韓方薬局

感想

今回の韓国研修に参加させて頂いたおかげで、日本の薬剤師の共通点や医療制度、韓方、薬学部との相違点に気づく事ができました。4年生の内に研修に行けたので今後の病院・調剤薬局研修の時に今回の経験を活用していきたいと思えます。また漢陽大学の学生と韓国語や英語を用いて会話をするため交流することで単に異文化を知るだけではなく、コミュニケーション能力を向上させることが出来ました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。